

6 その他(感想などご自由にお願ひします)

- ・今日は保護者という立場で参加したが、企業人としてもとても興味深いシンポジウムだった。私自身、海外で数年間生活した経験が、現在業務において海外の人と関わる際、非常に役に立っている。グローバル人材を地方で育てることは難しいと思うので、IBの導入によって道が開かれることを期待している。
- ・国際バカロレアに対して、むしろ間違っただけの偏見を抱いていたことに気付いた。もう少し色々具体的なことを知りたい。
- ・今でも教職・その他公務員の高学歴(偏差値)を有した社会人や大学生の数々の不祥事などからしても、どの社会でも単なる知識でない人間性が今でも必要だが、今後は更にいっそう必要と思われる。
- ・高知県の積極的な取り組みを垣間見れた。県教委、県は県、民間は民間で子ども達の為に出来る事をやっていきたいし、やらなければならないと思った。
- ・高知県にバカロレア教育の人材がいるのか心配。指導者がいるのか？
- ・能動的な講演の部分もほしかった(質疑応答)。四万十町の者だが詳しい内容を知りたい場合、どちらの機関、人に直接聞けばよいのか教えてほしい。
- ・良い点ばかりが目についたが、IBを教える先生の育成はどうなのか？本当に平成30年度開校に間に合うのか？校舎は完成するのか？いつか小学校から公立で、このような教育が学べるといいとは思ふ。
- ・もし推薦入試などで落ちた場合、他の学生と同じように一般入試を受けても対応できるレベルにしてくれるのか？
- ・IB認定校の卒業生の話は具体的なイメージが持てて良かった。
- ・開校にあたっては、もっともっと話し合いの場をもっていただきたい。企業が求める人間育成は、本来の学問の姿なのか、考えさせられた。誰の為にグローバル人材育成なのか？政府のため？この理念を公立小中学校で普及させないと、本当のグローバル化は難しいと感じた。普通の子が行ける、公立中も設けてほしい。
- ・世界に通じる、活躍できる人材を高知から、という考えは良い。世界に目を向ける教育を高知から発信したい。
- ・思ったより小さい、マラ・ユスフザイの理想を求める人材を言わなかった。第一企業で活躍するより世界平和をリードする様な人材を求めよ。何のために生きているのか、何のために学ぶのかも教えるべき。
- ・地域や経済の格差を解消する取組だと思ふので、先細りになつたりしないように、教員育成やこのような周知のための活動を進めていかねばならないと思う。
- ・子どもたちが地域や国際社会で活躍するために、まず今高知県に欠けているものは何なのか、を県がどう捉えているかということに立ってパネルディスカッションがあれば、今後の県の取組みに生かせるのではないのか？ディスカッションのなかにもあったが、教員をどう確保、養成するのか？
- ・教える側の教員の育成が急務だと思う。育成方法について詳しく知りたい。
- ・模擬問題は見たことがあったけれど、どのような文章を書くのか知りたいと思い参加した。カリキュラムまで明確にあるのは興味深かった。ただ評価はどのようにするのか、保護者の理解が必要だと思った。
- ・知性だけでなく、人格や情緒の形成がどのように行われるか具体的な説明があれば、魅力を感じられると思う。国際コミュニケーション学科を卒業してもコミュニケーションの難しさを実社会で痛感する者にとって、大きな期待を持って見守っていききたい。レポート8000字で人格は…。
- ・長谷川先生のお話の「専門の賞味期限は5~10年だが、新しい発想(リベラルアーツ)を持っていれば次に進む」ということは課題発見力・課題解決力の大切さを端的に示されており、バカロレアと今の教育の目指すものとして、感銘を受けた。
- ・バカロレアの目指すもの、教育プログラムは他の小中高も参考となるものと思う。情報発信をお願いしたい。
- ・パネリストの方々に質問したいことがたくさんあったが、そのチャンスがなくて残念だった。初めからパネルディスカッション形式であることはわかっていたが、高知の人間の特徴なのか、なぜと思うことは確かめたかった。「なぜ」という気づきももらえた事はありがたかった。
- ・入学試験は知識重視？それとも、はきはきと自己発表が出来ること？学生は、国際色豊かなのか？教育者の能力の高さを求める。また、子供達の卒業後、高知県の企業に受け入れる体制ができていくのかも心配。
- ・次回のこの会は、IBで育てたい力のために、どんな手法・プログラムを準備するかという内容だと思う。次回を楽しみにしている。
- ・教員の質の確保、向上への対応、取組みの大切さを感じた。
- ・新中高一貫教育校のIBコースはどのような入試になるのか、保護者として関心がある。
- ・高知にIB校ができることで、子供の学校に選択肢が増えて期待できる。
- ・聞き慣れない横文字や略語が多く、さらに早口な進行だったため、ついていけない部分が多々あった。
- ・子どもがまだ保育園児なので早いか、と思ったが、参加してとても良かった。子供の教育について、親も広い視点をもたないといけないと思えた。今後もこのような機会があれば参加させていただきたい。
- ・託児があるのが本当にありがたかった。
- ・IBを受けようと思える人間になる為には、それ以前の教育もとても大事であると思う。50年の歴史をもつラボ教育センターの行っている教育を一度、知って欲しいと思う。バカロレアの人材像と全く同じなので、何かの参考にしてもらえたらと思う。
- ・IB教育をする先生についての不安がある。小学校からのIBプログラムは土佐山小中？小学校(公立)からのIBプログラムはないのかな、と思った。
- ・また詳しい説明が聞きたい(高知での認定校)。
- ・IBが目指す子どもの育成ができる教師の育成が1番の課題なのではないかと思った。
- ・私が若ければ、是非経験したい教育だった。高知は私学進学が強く、私も私学に進学したので、子供には広い選択肢を見せたくて、今回参加をした。娘の希望もあるが、将来の選択として是非考えたい内容だった。また、このような会があれば参加させていただきたい。

6 その他(感想などご自由にお願いします)

- ・バカロレアの教育プログラムに対応するための子ども達の基礎学力をしっかりと定着させ、それをもとにしてチャレンジして、学習をしていく意欲を持たせることが先ずは大事だと思う。教育現場(1クラス30名)学級の実現をお願いしたい。
- ・国際バカロレアに関する本を何冊か読んでいたので、シンポジウムの形で再度学習することができ、理解が深まったと感じる。
- ・試験問題を見て、非常にレベルが高いと感じる。高い基礎学力がなければ、解答内容が薄くなるはず。初等教育での連携も大切に感じる。
- ・少しずつIBについて分かってきた。本も読んでみたいと思う。
- ・石筒先生の話にとっても共感できた。
- ・具体的な授業の様子を映像で見せてほしかった。
- ・大都市圏や私立、インターナショナルスクールではなく、地方の陸の孤島に近い高知でIBプログラムに挑戦できるチャンスがあることは、子供達の未来に希望が持てると思う。IBプログラムでは生きる力や生き抜く力が育てられると感じた。
- ・IBについてなんとなく分かった。もっと具体的に各教科の授業内容を詳しく知りたかった。
- ・パネルディスカッションは短い方が良かった。長時間で間延びして、同じ意見が出ることもあり、メリハリある短時間の方が良いと思う。
- ・IB認定取れずとも、小中でも準じた教育をしてほしい。子が少なく大きい学校へ流れていき生徒減少が問題となっているの町神谷小中のような田舎でこそ、地区外からの生徒を呼びこめる大きな特徴として、IBのような取組をしてほしい。
- ・60名ではなく、もっと枠をふやしてほしい。
- ・バカロレア“押せ押せ”の印象。もう少し幅広い意見に答える内容もほしかった(大企業、東大パネリスト)。
- ・教育の基礎的考えをして重要な部分だと共感した。
- ・高知県の公立高校にもっと頑張ってもらいたい。
- ・IBの理念や国の方向、日本や高知県の現状など、基本的なことが大変よく分かった。次回があるのなら、実際の取組みや現実味をおびた話を聞きたい。
- ・パネルディスカッションはもっと深まりのある話があれば嬉しかった。
- ・「スーパーグローバルハイスクール」もそうだが、まだまだ「特定」の学校の「特別」なプログラム、という印象。全ての学校、教科でIBの理念が自然に取り込まれれば、と思った。(できれば生徒も先生も苦しくない形で)
- ・託児があるのはすごく助かる。
- ・IBプログラムによってグローバル人材の育成ができるとは思えなかった。教育者への教育が必要と感じる。
- ・子どもに何の為に勉強するのかを教えるところからIBははじまるということに素晴らしさを感じる。閉塞感の漂う現代社会で真に求められる教育だと思った。
- ・IBについて幅広い知識を多角的な視点から学ぶことが出来た。パネルディスカッションは、テーマ(質問)と解答がややずれている様な印象も受けた。
- ・大都市に負けないグローバルな県にしていきたい。
- ・IBについてよく理解することができたと同時に、これからの教育の方向性において、何が必要なのか、どうしていくべきなのか、ということを考えさせられた。私は私学の教員だが、現場での活用を通してどう教育していくか、ということ改めて考えるきっかけになった。
- ・パネルディスカッションはつまらなかった。
- ・世界共通の教育プログラムの存在を知ることができて良かった。素晴らしいプログラムだが、学べる人数に限りがあるのが残念。県立安芸中高校でもぜひ導入して欲しい。
- ・教育に格差ができないよう願いたい。今の高学年の子ども達はこの教育は受けられないのか？
- ・小学校での基礎学力をつけることと、英語で会話ができるということを重視した教育活動をしてもらいたい。
- ・多様な生徒がいるので、全員がアクティブラーニングはできない。この点はどうすべきなのか？IBの教員は？高知でどう育成する？すぐれた子供たちが高知のためになるようにしてもらいたい。
- ・多様化する社会で生き抜いていくために、課題解決力がいかに必要か理解できたように思う。
- ・新中高一貫教育校がどのようになるのか(入試・授業等)くわしく聞きたかった。
- ・パネルディスカッションが長すぎでは？あまり話に発展がなかった。
- ・IBに興味をもつきっかけになったので、来てよかったと思う。
- ・実際に生徒がどのように学んでいるのか、具体的に見てみたいと思った。また、これまでの既存の仕組み(教科書、行事、教員組織等)をどう生かすのか、自分も考えてみたいと思う。
- ・高知県のIBだからレベルが低いということにならないように、しっかりとした準備をして立ち上げてほしい。
- ・希望すれば入学できるのか？やはり試験等があるのだろうか。
- ・中学校から、英語強化の取組をしてもらいたい。英語の出来る子どもが高知でも増えている。できれば、授業は英語で。でないと、「IB卒業して英語は？」と子どもが周りの人から言われかねない。なので、グローバルコースの子を増やすべきだと思う。
- ・石筒先生の話はグローバルと身近なものをくっつけて話してくれて、グローバル教育についてよく分かったような気がする。
- ・現在小学2年生、国際バカロレアのプログラムにたえられる感性豊かな子供に育てられるか、可能なかぎりやってみてみたいと思う。
- ・医者および理系の企業は、このシステムは必要である。また、高知にとっても絶対必要。
- ・とても素晴らしいバカロレアですが、今の西校ではグローバルすらできる人材が居ない、ステップアップどころかアンダーグラウンドが悪い状態で積み上げるのはムリと思われる。言うことは出来ても実行出来ない、子供達にはそんな大人になってほしくない。やるのであればもっと受け皿をしっかりとしてほしい。中学受験で上位レベルの子どもが私立へ抜けた残りの人材でも、公立で立派に自立できるよう願います。

6 その他(感想などご自由にお願ひします)

- ・ 指導員の確保ができるかどうか課題を感じた。
- ・ どうすればIB認定校になるのか知りたかった。どれくらい認定を受けるのがハードなのか？実現性はどの程度？
- ・ IB認定校への入学試験の詳細を知りたい。現、南中のような適性検査なのか？それに加えて何か試験があるのか？
- ・ 現在の教育を否定しすぎているのに違和感がある。
- ・ DPの定員(目標)は20名で超エリート教育、公立校がやることなのか。IBを多くの児童、生徒への波及させるような、もっと積極的な政策が必要。
- ・ 国際バカロレアのシステムはすばらしいと思うが、教える内容も考えなければならないと思うし、教育者には頑張ってもらいたいと思っている。
- ・ どうして東京と高知が公立校でIBに取り組むことになったのかがよく分からなかった。
- ・ アクティブラーニングもIBもかなり前からあったものだと知り驚いた。1年後のこともそうだが、子ども達が大人になった時に必要な力をつけられるような、もっと先を見た教育をしていきたいと思った。
- ・ いい企画だが注意不足で参加しそこなうところだった。PRを今一つ強くやってほしい。
- ・ 日本/海外のIB校のカリキュラム、授業の様子などの映像・例が一部でもあれば、もっとイメージしやすかった。地方公立高校でIBが始まるのは、日本の教育の過渡期にあるからなのか。文科省の人文系学部廃止やセンター試験もなくなり、色々動きがありそう。
- ・ グローバル、IBの教育など中身は教養や哲学的なものごとを考える能力だと思ったが、現在は大学では実用的なことを学ぶ大学が増えているように思う。
- ・ IBの内容を限られた学校だけではなく、全学校に導入するべきではないか。
- ・ 高知のIB校に期待している。
- ・ まずは興味でた。
- ・ バカロレアに有る無しに関わらず、アクティブラーニングについては今後進めていくべき学習形態だと思う。そのためには教える側の教員の学びがますます大切になってくることになる。
- ・ 石筒先生の話が一番現実的な内容を含んでおり、分かりやすかった。
- ・ 耳の発達のことを考えると、未就学児から(英語を)取り入れていく事も必要かもしれないなとも思うが、どのような教育を進めていくのが未来の大人(現在の子ども)たちのためになるのか、考えさせられる。
- ・ 自分の子供の事と考えると、この子がどう世界の中でいろんな人の意見を聞いてグローバルな人間になるには、どうしたらいいだろうと改めて考える。世界が求める人間は共通しているし、国際バカロレアは本当にひろがってほしい。
- ・ スーパーグローバルハイスクールと言っていますが、その素地は小学校にもあると思うので、小学校でも教員を養成すべきだと思う。
- ・ 入試の面でも大きな課題はないだろうか。受験の方法は？実際、経済力＝学力につながる場合が多いので…
- ・ 貴重な講演を聴くことができ、本当にありがたかった。講師の方々もすばらしく、とても貴重な機会だった。託児サービスがないと参加できなかった。
- ・ 会場が寒かった。
- ・ 順次、準備状況を公表して欲しい。
- ・ 公立でIBを学べて授業料が安く…という話は分かったが、なぜ公立の中でも南・西高なのか、疑問に感じた。他にも公立はあるのに、なぜそなのか。熱心な家族は私立受験をする高知で、公立にIB導入するとなっても、本当にその質次第だと思う。
- ・ まず、この国際バカロレアを指導できる先生が一番大切だが、できるのか？いくら新中高一貫教育校に導入してきたとしても、ただの英語が話せる学校で終わらないかと、親としてそこが一番心配なところである。
- ・ 国際バカロレア認定校に入学後、ついていけずに落ちこぼれた時のフォローが知りたい。
- ・ 日本の教育である知・徳・体と目指している所は似ていると思った。高知でIBの学校に受かるなら行かせたいが、道しるべとなる学校の体制や指導者等についても聞きたかった。
- ・ IBとは…という中身が重複しており、またかと思ってしまう場面があった。
- ・ 西高と南高が統合してできる学校での、IBのカリキュラムを教える先生はどのように確保するのか、またIBのDP取得が十分にできるような体制になるのかどうかはまだよく分からず、子供を進学させるには不安がかなりある。
- ・ 参加できて良かった。
- ・ バカロレアの実際の内容をもっと詳しく知りたかった。メリット、特にデメリットもはっきり言って欲しい(大学入試など)。
- ・ IBに関して不透明だった点がとてもクリアになった。教育界・産業界・行政側のベクトルが同じ点も勉強になった。
- ・ 企業の方、卒業生の方、大学の先生と色々な立場の方の率直なお話が聞いて良かった。高知では1校しかないのだろうか？もっと選択肢を増やしてもらえるとうれしい。
- ・ なぜ今「グローバルな人材」が求められるのか、ピンとこない所があったが、本日の話の中でその必要性、重要性を実感することができた点が良かった。
- ・ 県がIBについての理解を深め、県民に説明をつづけていく。それとともに新中高一貫教育校での取組を充実させてほしい。
- ・ 認定校に入学させたいが、現時点では受入れ人数が少なく入学が難しそう。
- ・ 同じ話(内容)のくり返しは時間のムダ。短くても分かりやすい内容だと良かった。
- ・ 勉強になりました。

6 その他(感想などご自由にお願ひします)

- ・ IBの学習はすごく興味深く、若かったらぜひ学習したかった内容だと思った。小学生、中学生に話すことができると思う。
- ・ 教員の指導、研修がとても重要だと思った。
- ・ 日本でもっとこういった教育が根付いてもらいたい。
- ・ とても貴重な講演だった。
- ・ パネルディスカッションの時間が長い。講演と重複する内容だったり、ダラダラ話をしているパネリストもいるように感じた。もっと簡潔に、パネリストが互いに質問したり意見が言い合えるようなディスカッションが聞きたかった。
- ・ IBプログラムを教える教員は、特殊な教員ではなく他公立高校と同じで、異動もあるはずだが、どうなっているのか？西高校はIBプログラムではない、日本の文科省のカリキュラムはやらないのか？
- ・ IB教育を指導する人材になるためには、今の日本では難しいようなので、平行してやっていてもらいたい。あれば学びたい。
- ・ IBの理念はすばらしいと思うが、IBでなければならない必然性(文科省が強力にすすめる必然性)が、いまいち理解できない。
- ・ 良い情報を得られた企画だった。
- ・ IBプログラムがグローバル化のための英語教育という誤解がまだ大きいので、もっと踏み込んだ内容の議論が必要。
- ・ バカロレアの目指すものについては、非常によく理解できた。ただ気になるのは、全国的にまだ導入されている高校がない中、(公立で)高知県でこのプログラムをスタートさせる際、環境の整備を含め、学校、生徒に対する負担がどのくらいなのか、が知りたいと思った。
- ・ 家庭、地域での取組みは大切かつ必須。だが、現在地域・家庭がそのレベルにないと思う(物事をしっかり見て、深く考えるという土台がない)。まずは、公的な働きかけによって、小さいうちからの教育が必要だと感じている。教育によって、文化(あたりまえと思えるもの)になってほしい。
- ・ 答えのないもの(複数の考え方ができるもの)に対して、話し合う事、考えを深めること、その訓練をすることは大切。これを1人1人が、日常的にできるようになれば、地域でも(高知でも)活躍できる人材が多く育ち、きっと高知もより良い方へと動き出すと思う。
- ・ バカロレアの推進とともに、県外に出た子供が大学卒業後本県に戻ってくる体制の両方を充実させる必要がある。
- ・ 教育システムが変わりつつあることを感じた。東京大学の話も聞いて興味深かった。パネリストの方が話していたように、公立でやることに意味があると思う。
- ・ またこのような機会があるといいと思う。教員の養成こそが重要であると思うので、よろしく願ひしたい。
- ・ 関係者の方々の今後の取組を期待する。
- ・ 実際にIBDPのプログラムを受けた方の話を聞いたことがとても良かった。
- ・ とても勉強になった。将来の日本社会を安定させるためには、多様性をもった課題発見・解決能力、常に学びを探究できる人材を育てることが大切だと再確認できた。国際バカロレアを理解できた。
- ・ パネルディスカッションの時間を短くすべき、ディスカッションの始めは講演の内容の繰り返しであった。講演時間をもう少し長めにした方がよい。
- ・ IBを知る良い機会を設けてくれてありがたかった。
- ・ IBで学んだ力を高知県の企業がどれだけ評価し、採用に反映していくのか、今後の様子をみていきたい。
- ・ もっと英語でコミュニケーションができる教員が増えてほしい。英語の授業でもっと言語的活動ができるように、定期試験やセンターも変えるべき。
- ・ IB推進のため、教える人材の育成をどのようにしているのか、という現状についてもう少し説明があると良かったと思う。
- ・ 今後高知大学のIBの活用を期待する。
- ・ 中学での選考が大切になると思う。そして教員の資質。頭でっかちで知識ばかりで知恵がない子はいれない事である。入学選考は内申書と面接で選ぶべきである。定員ありきではなく良い子は多く入れ、良い子がいなければ定員割れでもよいだろう。塾など行かない学校にしてほしい。教委から変わって欲しい。
- ・ 公務員にバカロレア出身者はなれるのか？
- ・ グローバル教育の方向性や理念、考え方等について、理解や認識が深まったと思う。バカロレア認定校の実態をもう少し詳しく知る事ができたら、さらに良かったと思う。
- ・ 同じIBを導入した学校でもスコアの差というのはでてくると思うので、子どもをあずけたい気持ちはあるものの、一種の賭けでもあるなと思った。